

Card Magic Magazine



No. 14

June 2, 2013

by Hideo Kato

カードマジック徹底研究

テレフォントリック

私は天海賞受賞記念作品集“MAGIC100”の中で、電話を通してカードを当てるマジックを私の考案として書きましたが、その後カール・ファルブズの著書の中で、ほとんど同じやり方が、1905年にジョン・N・ヒリアードの方法として発表されているのがわかりました。

しかもヒリアードの方法が、テレフォントリックの最初の方法であり、その方法に刺激されて、色々なバリエーションが生まれたということです。

すでに存在するものを考えたのは時間の無駄使いです。やはりクリエイターは、過去に存在するマジックや歴史を学ぶことが大切です。この特集の目的のひとつとしてそのような点もあるわけですから、テレフォントリックだけでもいかに先人達が智慧を積み重ねてきたか、アイデアのバラエティさを観賞し、クリエイターとしての栄養としてください。

テレフォントリックについては、カール・ファルブズが“モアセルフワーキングカードトリックス”に重要作品をまとめて書いているので、それらを紹介したあと、他の文献に登場したものを年代順に収録いたしました。

トウェンティセンチュリーテレパシー

= ジョン・N・ヒリアード、“モアセルフワーキングカードトリックス”、1984年 =

* 現象 *

客のうちの1人を隣りの部屋に行かせます。別の客に一組の中から任意のカードを言わせます。隣りの部屋の客に戻ってきてもらい、彼に超能力者の名前と電話番号を教え、その番号に電話をかけてもらいます。電話に出た超能力者は、こちらが何もきかないうちに、「選ばれたカードは〇〇の××です」と、選ばれたカードを当ててしまいます。

* 方法 *

電話番号はつねに同一ですが、超能力者の名前は相手の選んだカードによって違うものを告げます。電話をかける人が「〇〇さんお願いします」と言ったとき、電話を受けた人はその名前によって選ばれたカードを判断します。

52枚分の異なる名前を記憶することはたいへんです。小さな紙にマークと数字のマトリックス状に名前を書いておき、その裏面に電話番号を大きく書いておきます。そして客に電話をかけさせると

き、「この番号にかけて」と言ったときに、紙の裏面でカードに対応した名前を見て、「〇〇さんと呼び出してください」と言います。

*** 備 考 ***

ファルブズはヒリアード自身のバリエーションとして、リストを見て名前を知るのではなく、AからMのアルファベットを数字の1から13までにあてがい、それらを苗字の頭文字に使用し、AからDを頭文字としてを名前の方に使ってマークを伝える方法も書いています。

私が“MAGIC100”に書いた方法は、カードに対応した名前の名刺を52枚用意しておき、カードインデックスの方法などで所定の名刺を取り出して相手に渡す、というものです。

魔女への電話

= 作者不詳、“モアセルフワーキングカードトリックス”、1984年 =

*** 方 法 ***

この方法では、超能力者の電話番号と氏名は最初から告げておきます。ただし電話をかけるのはあなたです。超能力者は受話器を取ったときから、「A、2、3、」と声を出して数えてゆき、あなたは客のカードの数が言われた直後に「もしもし」と言います。

超能力者は続けて「ダ、ク、ハ、ス」と言い、客のマークの頭文字が言われたとき、ふたたび「もしもし」と言ってから、受話器を客に渡します。これで超能力者にはカードが伝わっているのですから、適当な演出で当ててみせます。

*** 備 考 ***

オーヴィル・メイヤーは著書“マジックインモダンマナー”(1949年)の中で、この作品が、アンネマンが雑誌“ジックス”1938年8月号に‘Dr. Rihne Hoodwinked’として書いている方法の応用であることを指摘しています。ファルブズはそのことに言及していません。

アンネマンが“ジックス”同号に書いているのを確認したところ、それは電話のテレパシーではなく、隣の部屋にいる霊媒とか、目隠ししている霊媒に情報を送る方法として書かれていました。使うのはESPカードです。

霊媒が1枚の記号を当てた瞬間を‘0’として、送り手と霊媒は同時に心の中で「A、2、3、4、」と数えていきます。同じスピードで数えるトレーニングが必要です。そして4を伝えただけで、心の中で4をカウントしたときに「これは？」とカードを手にしたはずねます。

偉大なテレフォントリック

= 作者不詳、“モアセルフワーキングカードトリックス”、1984年 =

* 方法 *

この方法は、フォースを用いるものです。あらかじめ超能力者と特定のカードを取り決めておきます。たとえばクラブの8だとします。このマジックをやるとき、クラブの8をボトムに置き、2枚のカードを表向きにしてボトムにまわします。すなわち、ボトムの2枚が表向きで、ボトムから3枚目がクラブの8というセットです。

超能力者の氏名と電話番号はあらかじめ告げておきます。デッキを一人の客の背後に持っていかせ、トップから1枚取ってひっくり返してデッキの中に入れさせます。ボトムからも1枚取ってデッキの中に入れさせます。そして1回カットしてもらいます。

デッキを受け取り、テーブルにスプレッドします。表向きのカードが2枚あります。表向きのカードとその上隣の裏向きのカードを抜き出させます。どちらがクラブの8であるかわかっていますから、クラブの8でない方の裏向きのカードを表向きにして「何のカードが選ばれるかはまったくわかりませんでした。こちらのカードを電話の向こうの超能力者に当てさせましょう」といって、あとは通常通り演じます。

* 備考 *

テレフォントリックというと、電話で暗号を送ることにこだわりがちですが、確かにフォースを使うこともできるわけです。上記のフォースは、あくまでもセルフワーキングの本の中ですから仕方ありませんが、スベンガリデッキ、クラシックフォースなど、もっと効果のよい方法があります。

あらかじめ決めておいたものをフォースする、という考え方を発展させれば、あらかじめ枚数目を決めておき、あなたは客のカードをその枚数目にコントロールし、超能力者は「そのカードは上から16枚目にあります」と当てることもできるわけです。

なおフォースを使うテレフォントリックについては、1944年の時点で存在していました。7ページの‘モアアバウトテレフォントリック’を参照してください。

手元で起こる奇跡

= 作者不詳、“モアセルフワーキングカードトリックス”、1984年 =

時代とともに、テレフォントリックは異なる方向にも発展していき、電話を通して相手にトリックを演ずる、というタイプのものも生まれました。

* 現象 *

客の1人が自分のカードを使って、5枚ずつ2組ポーカーの手を配ります。一方のポケットを選び、よくシャフルしてからトップカードを見ておぼえます。それからデッキから何枚かのカードを取ってそのポケットの上ののせ、おぼえたカードを埋めてしまいます。その上にデッキをのせ、最後にそれらをもうひとつの5枚のポケットにのせてそろえます。

客はトップから順にカードの名前を読んでいきますが、すべてのカードを読み上げたとき、電話を通してマジシャンは客の覚えたカードを当ててしまいます。

* 方法 *

相手のおぼえたカードはつねにボトムから10枚目、すなわちトップから43枚目にきますから、相手の読み上げるときに43枚目をチェックすればよいのです。

* 備考 *

この方法が素晴らしいとか使えるという意味で収録したのではありません。オートマチックコントロールという他とは異なる原理によるものであることの一例として取り上げました。

テレフォンポーカー

= 作者不詳、“モアセルフワーキングカードトリックス”、1984年 =

これはフォースを使いますが、客の選ぶのは自由で、他のカードをフォースするという奇妙な原理を使っています。

* 現象 *

客はカードをよくシャフルして1枚のカードを選び、裏にサインをつけます。それにあと4枚のカードを加えて5枚として、そのうちの1枚を裏向にします。これでスタッドポーカーの手ができました。客はあらかじめ氏名と電話番号の知らされていた超能力者に電話をかけ、5枚のうち、表向きの4枚を好きな順番で読み上げます。すると超能力者は、裏向になっているカードを当て、それから客がサインをつけたカードを当てます。

* 方 法 *

客のカードはフォースしませんが、それ以外の 4 枚をフォースするのです。あらかじめわかっているカードを 4 枚トップにセットしておきます。ダイヤの 8、クラブの 5、ハートの J、スペードの 2 の 4 枚だとします。

初めに電話を通してマジックを行うことを告げ、超能力者の氏名と電話番号を書いた紙を明示して、テーブルに置いておきます。

トップの 4 枚が変わらないようにフォールスシャフルし、デッキをテーブルに置きます。客に好きな所からカードをカットして、上半分をテーブルに置き、下半分を取ってシャフルさせます。それから下半分を上半分の上に交差させてのせさせます。ここであなたは後ろを向きます。

客にいちばん上のカードを取らせ、そのカードの裏に客の名前をサインさせます。交差している所からカードを分け、もとの上半分のトップから 4 枚のカードを取らせ、サインしたカードに加えさせます。他のカードは使用しません。客のサインしたカード以外は、初めトップにセットした 4 枚です。

5 枚のカードを表向きにテーブルに置いて、「これはスタッドポーカーの手なので、サインした以外の 1 枚のカードを裏向きにしてください。」と指示します。ここで超能力者に電話をかけさせ、表向きのカードを任意の順番で読み上げさせます。超能力者は、あらかじめ知らされている 4 枚のカードの中から欠けているのが裏向きのカード、知らされていないカードが客のサインしたカードだとわかるので、それらを適切な演技で当てます。

ノークエスチョン

=リチャード・ヒンバー、"モアセルフワーキングカードトリックス"、1984 年 =

* 方 法 *

友人に電話をかけて、電話口にカードを持ってこさせます。トップから左、右とカードを 2 つの山にディールさせ、好きなところで止めさせます。ただし、両方に同じ枚数まかせたところで止めさせること。

残っているカードはポケットにしまわせます。左の山を取り、そのポケットから好きなだけカットさせて、カットしたカードのボトムカードをのぞいて覚えさせ、それらのカードをテーブル上のカード（右にまいたカード）の上にのせてもらいます。

相手の手に残っているカードを 1 枚 1 枚読み上げてもらい、こちらではその名前を紙に順番にメモしていきます。そのあとで「あっ、あなたの覚えたカードは別の方に入っているんですね。そちらの方を上から読み上げてください」といって、相手が読み上げてゆくときに、さっき書いたリストに続けてカードの名前を順にメモしていきます。

相手の読み上げたカードの枚数が 18 枚であるとすれば、18 を 2 で割ると 9 になりますから、相手のカードはリストの上から 9 枚目のカードですから、それを言って当てます。

*** 備 考 ***

相手のディールしたカードがあまり多くないといけないので、それなりの枚数をディールさせるようにしましょう。2 つのパケットに同じ枚数をまかせることは、相手がどちらからまいたか気にしていなければいけませんし、同じ枚数まいたことを認識させることはトリックを見破りやすくします。どちらの山でまき終わっても、トリックに支障はありません。トータル枚数が奇数であったら、リストの中のちょうど中央のが相手のカードです。たとえばリストに 23 枚あれば、12 枚目が相手のカードになります。

コネクション

= 作者不詳、“モアセルフワーキングカードトリックス”、1984 年 =

*** 現 象 ***

カードを表向きにテーブルに広げ、相手に好きなカードを 1 枚抜かせます。あなたは超能力者の家に電話をかけ、まだ呼出音がしているうちに受話器を相手に渡します。超能力者が電話に出たとたん、選ばれたカードを当ててしまいます。

*** 準 備 ***

テープレコーダーに電話の呼出音を録音しておきます。

*** 方 法 ***

相手にカードを選ばせるときは、取りやすいカードを取ったのではないことを強調するために、何回か選び直させてもかまいません。

あなたが電話をかけたら超能力者はすぐ受話器を取って、テープレコーダーをスタートして、呼出音を送話口から送ります。すぐにあなたは受話器を相手に渡します。そのとき相手には呼出音が聞こえています。「選んだハートの 4 を心に念じていますね」といいます。これで超能力者に選ばれたカードが伝わりました。そのあと超能力者はテープレコーダーを止め、電話にいま出たかのように話し出します。そしてカードを当てます。

モアアバウトテレフォントリック

= オーヴィル・メイヤー、雑誌“ジニー”、1944年2月 =

これは私の知るかぎり、フォースを使ったテレフォントリックのバージョンの中で、フォースするカードを演じる当日の日をコードとして決める、というアイデアが最初に見られるものです。その後、多くの人が同じやり方を書いています。メイヤーは同じ霊媒に対して続けて演じられる方法を書いている点で傑出しています。

* 方法 *

現象は、客がカードを選び、電話の向こうの霊媒がそのカードを当てるといふ、もっとも標準的なものです。メイヤーは、この現象は古典であると述べています。

やり方はたんに、特定のカードをフォースして、霊媒役の方は演技者と取り決めてあったカードを告げるだけです。

毎回同じカードをフォースするのでは、観客の中にまえに見た人がいると通用しないので、演じる日によって替えます。とはいっても、霊媒役の方が月日に対するリストを所持しているのはたいへんなので、演じる日によって、その日をコードとしてカードを算出して決めるのです。

演じる日の2桁の数を加算した答をフォースするカードの数とします。そして曜日によってマークを決めます。月曜日から日曜日に対してダクハスをあてはめます。

マジシャンはそうにして決めたカードをフォースし、霊媒は電話がかかってきた日によって算出したカードを答えます。

もしもう1人の選んだカードを当てる場合には、サイ・ステピンスのようなスタックを霊媒と決めておいて、1枚目のつぎのカードをフォースします。

ディスカードテレパシー

＝ ヴォスバーグ・リオンズ、雑誌“フェニックス”、1944年12月＝

「だめだよジョー、今晚は用事があるってキミの家にはいけないんだ。その代わりによかったら電話でマジックをやってみせてよ。奥さんにカード一組を持ってきてもらって、テーブルの前に座ってもらって。キミはボクをききながらカードを操作することはできないからね。私が指示することをそのまま奥さんに伝えてくれたまえ」。

「カードをよくシャフルしてから、13枚のカードを左と右に2つの山に配るんだ。残りのカードは使わないから、わきに捨ててかまわない。そうしたら、左の山のまん中へんからカットして、カットしたカードのいちばん下のカードを見ておぼえる。そしてそれらのカードを右の山にのせて、カードをよくそろえる。ここまではいいかな。つぎに左山のまん中へんからカットして、カットしたカードを左手に持つんだ。そして左手のカードを上から1枚ずつ左の山に置いていく。全部置いたら、右の山を左の山にのせてそろえてくれ」。

「さて、カードを取り上げて、上から1枚ずつ表向きにしながら、そのカードの名前を読み上げて読み上げていくんだ。ボクがひらめいたらストップをかけるからね」。

というわけで、ジョーがダイヤの9といったときに、ボスバーグはストップをかけた。そして9のカードでひらめいたので、あと9枚のカードをディールさせた。ジョーがおぼえたカードを告げてから9枚目のカードを開けると、なんとそれはジョーがおぼえたカードであった。

* 方 法 *

上記の説明は原著の文章にほとんど忠実に書きましたが、相手がカードの名前を読み上げるとき、1枚目のカードでは、あなたは心の中で13と唱えます。つぎのカードでは12、そのつぎでは11と、だんだん唱える数を減らしていきます。そして唱えた数字と読み上げられた数が一致したときにストップをかけます。そして、相手がその枚数だけディールすると、その枚数から相手のカードが出現します。

確率を高めるために、心でとなえたのより1少ない数が読み上げられたときにもストップをかけます。この場合は、その枚数だけディールさせて、つぎのカードを表向きにさせます。万が一、最後まで適切なカードが出てこなかった場合は、0と唱えたときに読み上げられたのが相手のカードですから、1、2枚行きすぎしてから、相手のカードをいい当てます。

* 備 考 *

このトリックの後半の原理は、ボブ・ハマールのトリックで使われていますが、相手のカードを特定の枚数目にコントロールする、いわばオートマッチクプレイスメントの原理とみごとに調

和して、テレフォントリックとしてみごとに完成しています。

このトリックは、電話で行わなくても、相手から離れて後ろを向いて演ずることもできます。そのような見せ方を英語では、'テレフォントリック' 対して、'ディスタンストリック'(遠隔トリック)と呼んでいます。他に収録されているテレフォントリックも、遠隔トリックとして演じられるものがありますので、研究してください。

ディスカード

= ジャック・ミラー、雑誌 "フェニックス"、1945 年 12 月 =

これはテレフォントリックとしてだけでなく、後ろ向きになって演じても成立します。

* 方 法 *

好きな枚数のカードを横一列に広げさせ、その下に同じ枚数のカードを同様に広げて置かせます。カードの枚数は、同数であればトリックは成立します。

「上と下の枚数を違えるため、私が下の列から、そしてあなたが上の列から減らす枚数を決めましょう。下の列から 1 枚のカードを取り除いてください。あなたは上の列から何枚取り除きたいですか」とたずねます。相手が言った数だけを記憶します。3 だとします。そしてその枚数を上の列から取り除かせます。

「上の列の枚数と同じだけ、下の列から取り除いてください」と言います。その枚数を下の列から取り除かせます。

「上の列のカードを全部取り除いてください」と言って、その通りにやらせます。

「あなたが何枚のカードを置いたか知らないのです、何枚残っているかもわかりません。これからその枚数を当てます」と言って、適当な演技で当てます。残っている枚数は、相手が最初に上の列から取り除いた枚数から、下の列から取り除いた枚数の差、上記の例では 2 枚ということになります。

セブンスアップ

= エドワード・ヘイル、雑誌“リンクリング”、1947年5月 =

できるかどうかは別にして、原理的にはたいへん面白いもの。

* 方法 *

電話の相手にデッキをシャフルさせ、適当な7枚を裏向きに1列に並べさせます。他のカードは捨てさせます。

つぎに7枚のうちの好きな1枚を表向きにして、そのカードをじっくり見つめて、イメージをあなたに送るように指示します。

そのあと、左端から順にカードを表向きにして、すべてのカードを読み上げさせます。

選ばれたカード以外は表向きに返してから読み上げるので、ほんの少し間があきます。選ばれたカードはスムーズに読み上げられます。その違いで選ばれたカードを当てます。

カードディスカバリーバイテレフォン

= ビクター・ピーコック、雑誌“ペンタグラム”、1947年11月 =

* 準備 *

よくシャフルされた52枚のカードの順番を、紙に順番に記録します。13枚4列に書きます。そしてカードをインデックスにセットします。インデックスの1番目のホルダーに入れたカードがダイヤのAを示すカードとします。2番目のホルダーに入れたカードがダイヤの2を示すとします。以下紙に記録した順にインデックスにセットします。電話に出る仲間に、この紙のコピーを渡しておきます。もう1組使いますが、マークドデッキを使います。

* 方法 *

初めに電話の先の超能力者の名前と電話番号を、紙に書いて明確に示しておきます。

マークドデッキから任意のカードを押し出させ、ポケットに隠させます。マークによってそのカードが何であるかを見抜きます。

デッキからあと3枚のカードを抜き出させますが、その間にあなたは相手が隠したカードに該当するインデックスのホルダーからカードをスチールして、右手にパームします。相手の抜き出した3枚を取り、トップにパームしているカードを加えます。

相手に電話をかけさせますが、そのときカードの表をちらっと見て、加えたカードと同じカードがないか確認します。同じカードがあったら、3枚のカードを見せるとき、重複しているのを見せないようにします。

電話がつながったら、カードを1枚ずつ表を見せ、電話の相手に伝えさせます。最初にインデックスから加えたカードをいませます。これで電話の向こうの超能力者は、ポケットに隠されたカードを知ることができるので、それを当てます。

ノーインデックスコード

= 加藤英夫、“カードマジック研究ノート”、1997年12月21日 =

前述のピーコックの見せ方では、あきらかに3枚のカードによって情報が伝えられるのが明白です。相手のカードを含むカードを全部読み上げさせて、その中の相手のカードを当てる、とするのが自然なプレゼンテーションです。そこで、ヒントになるカードを1枚目に加える、というピーコックのアイデアを借用して考えたのがこの方法です。

* 準備 *

ダイヤのAに対応するカードはクラブの4というように、サイ・ステブンスの法則を利用して対応するカードを決めます。デッキの上の26枚に対して、対応するカードが下の26枚をマッチする位置にセットします。

* 方法 *

デッキをフォールスシャフルし、何回かカットします。相手にもカットさせます。ボトムカードをグリンプスし、それと対応するトップから26枚目のカードのしたからカットし、一方をテーブルに置きます。

好きなカードを選んでくれと言ってカードを広げますが、サイレントカウントして相手は何枚目のカードを取るかチェックします。相手が取ったカードを見ておぼえたら、手元のポケットを渡し、その中に相手のカードを入れて、よくシャフルさせます。

相手がシャフルしているその間にテーブルにあるポケットを取り、先ほど相手が抜いた枚数目と同じあたりをリフルしてのぞき、対応するカードを見つけ、それをサイドスチールするか、トップにカットしてからパームします。手元のポケットをテーブルにわきの方に捨てます。そして相手からカードを受け取り、電話をかけるように言います。右手にパームしているカードをトップに加えます。

あとは電話でトップから順にカードの名前を伝えさせ、超能力者は最初に読み上げられたカードによって相手のカードを知り、そのカードが読み上げられた瞬間、「それがあなたのカードです」と言えばよいのです。

フラウド

= ハワード・リオンズ、雑誌“イビデム”、1961年3月 =

* 現象 *

1人の客に電話帳を持たせ、部屋の隅に行かせ、適当な電話番号をピックアップしてもらいます。その間に、デッキから別の客に1枚のカードを選ばせます。最初の客が選んだ番号に電話をかけ、「いまトランプを使って心理的な統計をとっているのですが、52枚のうち好きなカードをいってください」と電話に出た人にききます。その人のいったカードの名前が告げられたあと、選ばれたカードが表向きにされます。それは電話で告げられたカードです。

* 方法 *

電話をかけさせる（電話をかける演技をする）客はサクラです。カードが選ばれたあと、マジシャンはそのカードの名前を言葉による暗号によってサクラに伝えます。サクラは、いかにも電話できいたかのように、伝えられたカードの名前を言います。

* 備考 *

原著には、どのようにして言葉で暗号として伝えるかは書かれていません。暗号の代わりに、サクラに電話番号でカードの名前を伝える方法を考えました。

選ばれたカードを認知したあと、紙に電話番号を書きますが、局番の何桁目かでマーク、そのあとの4桁の2桁目と3桁目で数を表現して、適当な番号を書きます。9までの数は09のように書き、10は10、Jは11、Qは12、Kは13とします。そしてサクラにその番号にかけさせるといって、サクラはその番号で選ばれたカードを判断します。

このように選ばれたカードを密かに認知し、あとでそのカードを表向きにして見せるというプロセスのあるマジックにおいては、選ばれたカードを認知する適当な方法が見あたりません。グリップスするには通常、カードをデッキに返させる必要があります。選ばれたカードを他のカードにすり替えて、選ばれたカードをグリップスしてから、のちほどまたカードをすり替えて表向きにする、という方法も考えられますが、すっきりとしたものではありません。このマジックを考えるにあたって、その方法についても考え、つぎのような方法を思いつきました。

あらかじめ赤いJを2枚抜き出して、表向きにテーブルに置いておきます。相手にカードを抜かせたら、デッキをテーブルに置き、2枚の赤いJを表向きのまま取り上げ、相手の選んだカードを受け取り、2枚のJの間にはさんでそろえ、「選ばれたカードを2枚のJではさんでおきます」と言って、「1枚、2枚、3枚」と言って、フェースから左手にカウントして取りますが、2枚目の裏向きのカードを取るときに、1枚目のJを右手のJの下にスチールし、3枚目として2枚のJを置きます。選ばれたカードはいちばん下にきています。

「この状態でこちらに置いておきます」と言いつつ、右手で持ったカードのフェースを相手の方に向けるようにして、選ばれたカードをグリップスし、そしてそれらのカードをデッキの上に交叉させてのせます。

選ばれたカードが当てられたあと、3枚を取り上げ、左手の指先でいちばん下のカードを右にずらし、上の2枚を左手に引いて取り、「1枚」とカウントし、つぎに裏向きのカードを「2枚」とカウントしながら左手のカードの上に取りますが、そのときいちばん下のカードを右手でスチールし、そのカードを「3枚」といって、左手のカードの上に置きます。以上のカウントは、左手の取ったカードがファンに広がるように取っていきます。

中央の裏向きのカードを抜いて、表向きにして見せます。

マセマティカルスリーカードモンテ

= ボブ・ハマー、1951年 =

これはテレフォントリックではありませんが、次作品との関係で収録しておきました。

* 方法 *

シャフルされたデッキから適当な3枚のカードを表向きにテーブルに並べ、中央のカードを記憶します。ハートのAだとします。

「私が後ろを向いたら、適当な2枚のカードを入れ替えて、こちらから1, 2, 3として、何番目と何番目を入れ替えたか、“2と3”のようにはっきり言ってください。何回かそのようにして2枚を入れ替えてください。あくまでもこの位置にあるカードが1で、ここのカードが2で、ここのカードが3です」と言って、左、中、右と指さします。

後ろを向きます。あなたは左手の親指を中指に当てます。そして相手に好きなだけ入れ替えをやらせませんが、2の位置にあったカードが何番にいくかトレースします。たとえば初めに「2と3」と言われたら、親指を薬指に移します。そのあと「1と2」と言われても、親指は3にありますので、親指は移しません。

適当な回数に入れ替えのあと、任意のカードの表をのぞいておぼえてもらいます。そしておぼえたカード以外の2枚を入れ替えさせますが、このときは無言でやらせます。そのあと、また何回か入れ替えをやらせませんが、初めと同様に入れ替えた2枚の位置を言わせ、それにしたがって親指の入れ替えを続けます。

適当な回数入れ替えたならやめさせ、あなたは中央のカードを後ろ手に受け取ります。そのカードがハートのAだとしたら、それが相手のおぼえたカードです。なぜなら、あなたのトレースした通り

の位置にあるということは、無言で入れ替えされなかったカードだということです。「これがあなたのおぼえたカードです」と言って、前に向き直りながら見せます。

渡されたカードがハートのAでない場合は、ハートのAは入れ替えられたのですから、ハートのAは相手がおぼえたカードではありません。もう1枚のカードを後ろ手に受け取り、それをちらっと見て、それがハートのAであれば、「残っているカードがあなたのおぼえたカードです」と言って、前に向き直り、最後のカードを表向きにします。2枚目がハートのAでなければ、「この2枚のうちのどちらかがあなたのおぼえたカードです」と言って、少し考える演技をしてから、前に向き直って、しかるべきカードを表向きにして、「これがあなたのおぼえたカードです」と言います。

以上を何回か繰り返します。

ロングレンジテレパシー

= サム・シュワルツ、"ボブ・ハマーズコレクテッドシークレッツ"、1980年 =

これは前述の'マセマティカルスリーカードモンテ'を電話で演ずるバリエーションです。電話を使わずに部屋の中で相手から離れて演じることもできます。

* 方法 *

相手にデッキの中から任意の3枚のカードを並べさせ、3枚の順番をおぼえさせます。任意の1枚の上にコインをのせさせ、他の2枚を入れ替えさせます。

ここであなたは左手の親指を人差し指にあてます。そして相手に2枚のカードの入れ替えを何回か行わせます。そのつど入れ替えた位置をいわせます。それにしたがってあなたは親指で1のカードをトレースしていきます。カードが最初の順番に戻るまで入れ替えを行わせません。

入れ替えが終わった時点で、親指が人差し指にあれば、1のカードが無言の入れ替えがされていないので、それがコインの置いてあるカードです。親指が中指にあれば、1と2の位置が入れ替えられたカードなので、3の位置のカードにコインがのっています。親指が薬指にあれば、2の位置のカードにコインがのっています。

コインののっているカードの位置を当てます。

セルラーカンジャレーション

＝トニー・セルジオ、雑誌“ジニー”、1995年3月＝

トニー・セルジオの文章を翻訳いたします。

それは、ハリウッドのフェアファックス通りの CBS スタジオの隣りのファーマーズマーケットでのことでした。これは名前の通り、農家の人野菜や果物を持ってきて、市民に直接売る場所でしたが、最近では、観光客相手のモールのようなものになっています。ホットドッグスタンドもあれば、アイスクリーム屋もあれば、お土産屋も並んでいます。食べ物だけでなく、アンティークや衣服やほとんどのものが買えるようになっています。

それらの店の一角に、客が休めるようにイスとテーブルが置かれた場所があります。朝の10時から午後3時の間は、その場所は、イカサマ師、ノミ屋、ギャンブラー、詐欺師などのたまり場となります。私はその場所を”ブンコテーブル”（いかさま師のテーブル）と呼んでいます。

私は近くを通ったときは、いつもそこに寄っていきます。彼らはいつも私はカードトリックを見せろと言います。たいてい私は見せることにしています。私が携帯電話のマジックを考えついたとき、意図してブンコテーブルに立ち寄りました。テーブルに座り、携帯電話をテーブルに置き、声がかかるのを待ちました。

すぐにリタイアしたギャンブラーのサムが声をかけました。「トム、何か見せてくれないか」。ちょっとしたコイントリックをやったあと、私はカードを取り出して、サムに1枚引かせました。(クラシックフォース)。いつものようにカードをよくシャフルしました。そして携帯電話を取り上げて、魔法使いの番号をまわしました。相手が出るまえに電話をサムに渡し、相手が出たら、「カードを当ててくれ」とだけ言うようにしていました。

魔法使いがカードを当てたあと、サムは一生懸命に電話を調べだしました。たぶん、電話をかけるまえに盗聴するような仕掛けがあると考えたのでしょう。そして予想どおり、「もう一度やってくれないか」と言いました。やってみたい気はあったのですが、ここでやめるのが得策と思い、そのときはそれで終わりにしました。

しばらくして、また私はブンコテーブルを訪ねました。すぐに声がかかりましたが、いつものように、「トム、何か見せてくれないか」ではなくて、「トム、魔法使いに電話をかけてくれないか」でした。それに応えて、私は Genii の 93 年 4 月号に書いたやり方を見せました。何回もフォースを使うやり方はやってきたので、もうそれは通じません。しかも今回は、彼らは私にダイヤルさえさせようとしません。

どのようにして私はこの窮地を脱したと思いますか。窮余の一策として、私はサクラを使ったのです。私たちのすぐ近くのテーブルに、サクラを座らせておきました。私は映画関係の仕事をしてい

るので、知り合いの役者に頼んだのです。彼の協力を得て、また今回もイカサマ師たちを煙にまくことができました。

やり方は説明いたしましょう。私はまず、紙に電話番号を書いて相手に渡します。これが、これからこのトリックをやるという、サクラへの合図となります。私が後ろを向いて、全員が選ばれたカードを見るように指示したとき、サクラは近くを通り過ぎ、そのカードを見てしまうのです。そしてなるべく遠くに離れて、電話がかかってくるのを待ちます。私は連中の驚きようをフィルムに撮っておけばよかったと思います。

このやり方は役者を使わなくても、レストランなどでウェイターにチップをはずんでおけばできます。渡しておいた携帯電話が鳴ったら電話に出て、紙に書かれたセリフを読むだけでいいのですから。

魔術師はキューピッド

= 加藤英夫、"彼女と遊べるおもしろ手品 21"、2000 年 =

これは私がマジックブレーンズというペンネームで書いた、三笠書房から発行された文庫に書いたものです。演出の参考として、現象説明だけを原文のまま引用いたしました。

「ボクの友だちに超魔術の名人がいるんだ。いまから携帯電話を使って、彼の超能力を試して見せよう」といって、キミはポケットから携帯電話と 5 枚のカードを取り出す。カードには、'自動車'、'パソコン'、'ワイン'、'花'、'ダイヤの指輪'と書かれている。

相手が 5 枚の中から好きな絵のカードを選んでテーブルに置く。そしてキミは白紙に電話番号と超魔術師名前を書き、そこにかけてその超魔術師を呼び出してもらう。超魔術師が電話に出ると、彼はなにもこちらがしゃべらないのにいきなりつぎのように語る。「いまあなたは、好きな物を選んだところですね。好きな物を心に強く思ってください、、、、わかりました。あなたの好きな物は'ワイン'ですね」と。

テーブルに置かれた選ばれたカードを表向きにすると、たしかに'ワイン'と書かれている。

ここでいったん電話は切られる。キミは「こんどはボクが好きな人を心で思うから、彼にそれが誰かを当てさせてみよう」といって、しばらく考えてから「うん、好きな人を選んだよ。同じ人に電話をかけて」という。電話の向こうの超魔術師はいう。「彼が心の中で思っている好きな人を当てよう。それは'あなた'です」と。

ということで、誰もが携帯電話を持っている時代ですから、テレフォントリックを活用しない手はありません。最後の例のように、実用的な目的にも十分利用できます。このトリックひとつで、恋人や、生涯の伴侶が得られる人もいるかもしれません。グッドラック！

加藤英夫のホームページ

<http://www.magicplaza.gn.to/>

Card Magic Magazine 第 14 号

発 行 2013 年 6 月 2 日

著 者 加藤英夫

発行者 加藤英夫

hae16220@ams.odn.ne.jp

